

## ■e-黒板ニュース（第37号）：北海道石狩市立生振小学校の公開授業報告

第22号で貸出機器到着の様子を、第25号で初めての電子情報ボードの授業をレポートしてくださった、北海道石狩市立生振小学校の山本和彦先生に公開授業の報告を、おねだりしたところ、さっそく書いてくださいました。

臨場感あふれる報告をお楽しみください。

最後はやっぱり、授業が早く終わったようです。電子情報ボードを使った授業は、いつもテンポよく進むので、どうしても予定より早く終わってしまうようですね。

今号の目次：

=====

1. 投稿：北海道石狩市立生振小学校の公開授業報告

=====

お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。会員の皆様からの投稿もお待ちしております。

宛先はいつでも ekokuban@cec.or.jp です。

e-黒板研究会のホームページ

<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban>

をご参照ください。e-黒板ニュースのバックナンバー等もご覧いただけます。

# 1. 投稿：北海道石狩市立生振小学校の公開授業報告

山本和彦@生振小（北海道）です。11月26日の授業の報告です。

この日は勤務校の自主公開研で市内の先生方が参観に見えました。私は算数で、e-黒板研究会で貸出していただいた日本スマートテクノロジーズ社の電子情報ボードを使った授業を行いました。

当初、別の教科書だと思っていたのですが、ボランティアで算数のお手伝いをしてくださる学生さんが授業に入るといことで、算数になりました。

\*\*\*\*\*

11月26日（金）2校時  
6年算数（東京書籍）「立体を調べよう」  
教材「小学校算数シュミレーション」東京書籍

## ●9時35分

黒板に日付、ページ数を板書。

「今日の日付とページをノートに書きなさい。」

教科書の問題を全員で音読させる。

「教科書43ページ、☆の1番の問題を読みます。」

子供たちの教科書を読む声はいつもよりも控えめ。お客さんがいることで緊張しているのだろう。最初が肝心。はっきりと発音するように指示して、もう一度読ませる。今度は良い声。声を出すと緊張もほぐれる。

「問題1に指をおきなさい。この中で平面だけで囲まれている立体はどれですか。平面だけで囲まれている立体に○をつけなさい。」

一斉に教科書を作業する子供たち。全員が書き終えたことを確認して、電子情報ボードの画面を見せる。電子情報ボード上には教科書と同じ4つの立体。一人を指名して、電子情報ボード上で選んだ立体に○をつけるよう指示。指名された子供が前へ出て、ペンをもった瞬間、子供の視線がボードに注がれる。

一斉指導で教科を教えているときに最も注意することの1つが子供たちの視線。教科書などで、「○○を見なさい。」と指示しても、違うところを見ている子供が学級に1人や2人、必ずいる。顔を上げさせると、見ているか否かが一目瞭然である。

前へ出た子供が赤いペンで次々と立体を囲んでいく。○をつけることができるのは電子情報ボードの良さ。顔を上げさせることが目的であれば、紙でもスクリーンに映すだけでも良い。電子情報ボードに出来て他のものにできないもの。それは映し出されたものを動かしたり、書いたものを残しておいたり、などができること。正解を確認して、自分の教科書にも赤鉛筆で○をつけさせる。

## ●9時40分

「教科書にあるのと同じようにノートに角柱をうつしなさい。」

子供たちは三角柱をノートにうつす。机間巡視しながら子供のノートをチェックしていく。

全員が書けたことを確認して、電子情報ボードの画面を見るように指示。画面の4つの立体（三角柱・四角柱・五角柱・円柱）から三角柱を選択して、拡大する。その間、子供たちの視線はずっと電子情報ボードから離れない。

「このように平面だけで囲まれた立体を『角柱』といいます。」  
電子情報ボード上に『角柱』と書き込む。子供たちのノートにも『角柱』という言葉を書き写させる。同様に底面、側面についても名前と場所を確認していく。

● 9時46分

「角柱にはどんな特徴があるのでしょうか。」  
今度は黒板に板書（2つの底面の形はどうなっていますか）をする。教室での電子情報ボードの位置は黒板に向かって右側。黒板は充分に使えるスペースがある。コード類が若干気になるが、特に不都合はない。

電子情報ボード上で立体を縦にゆっくりと回転させる。2つの底面がぴったりと重なり一つの三角形が画面に現れる。「おんなじだ」の子供たちの声。黒板に同じ形と板書。

「では、『2つの底面の並び方』と『側面の数』はどうなっていますか。調べてノートに書きなさい。時間は3分間です。」  
教科書とノートの間を往復しながら、調べた結果を書く子供たち。「2つの底面の並び方」はすぐに平行と書けている。「側面の数」をどう表すかで意見が分かれていた。3分が経過した。子供たちに発表させる。

「2つの底面の並び方はどうなっていますか。」

「平行です。」

電子情報ボードで立体の上下の底面に線を引き、平行だということを説明する。側面の数については、3つと書く子供が多かった。側面の数を数えて、それをそのまま書いている。

1名、「頂点が6つあってその半分」と書いた。おもしろい考え方。実際に数を数えてみることにする。電子情報ボード上の三角柱の側面にそれぞれ別の色をつけ、側面の数を数える。

「3つだね。では、他の角柱ではどうでしょう。」

四角柱、五角柱も同じ手順で確認していく。同じパターンの問いを続けることで、規則性が見えてきた。子供たちの中から側面の数が角柱の底面の数に同じだというつぶやきが聞こえてきた。

子供たちの声をひろいあげ、「側面の数は底面の辺の数と同じ」と板書。

「底面が三角形のものを三角柱。四角形のを四角柱。五角形のを五角柱といいます。底面の形で名前が決まるのですね。では、底面が32角形だったら？」  
この問いに子供たちは笑いながら、「32角柱」と答える。

● 9時57分

角柱に続いて、円柱も扱う。電子情報ボードで円柱を拡大して、見せる。「円柱」という名前を知っている子供が学級の3分の2くらい。三角柱の時と同じようにノートに円柱をうつさせた。電子情報ボードで教材を見せると子供たちは集中するし、理解もしているようだ。しかし、実際に図を書かせると書けないことがある。自分の手で書く練習も大切だ。

「うわっ、円柱ムズカシイ。コンパスあったらいいのになあ。」

きれいに書いて○をもらった子供たちは、苦労して書いた分だけニコニコとうれしそう。角柱の時と同じように黒板と電子情報ボードを使いながら、円柱の特徴について確認。

電子情報ボード上の円柱を見せながら子供たちに特徴を答えさせた。さほど時間をかけなくてもボンボンと答えていた。確認は電子情報ボード、言葉を板書するのは黒板。

● 10時8分

今日の学習事項の確認と定着のためにドリルを行う。5分で取り組ませ、隣同士交換させて採点。全員100点で喜ぶ子供たち。

● 10時15分

「5分早いけど終わります！」

以上

=====  
編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター 関 幸一  
e-黒板ニュース メールアドレス： ekokuban@cec.or.jp  
e-黒板研究会 ホームページ： http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/  
=====